

2018年度
福まち
パワーアップ事業
青葉地区の取組

次の世代につながる 土台づくりを



各单位町内会の福祉推進委員会などが行う見守りや住民同士の支え合い活動。その活動をより充実させるため、厚別区社会福祉協議会では2017年度から福まちパワーアップ事業を進めています。

今年度は青葉地区で重点的に取り組みました。その推進役となったのは、青葉地区福まち推進センターの山本廣美さんです。2015年12月から民生委員・児童委員をしている山本さんは、人に勧められて福まち活動にも携わり、現在会計部長として活躍しています。

今回は、山本さんから青葉地区の福祉のまちパワーアップ事業の取組についてお話を伺いました。

青葉地区は、高齢化率もみじ台地区に次いで高く、高齢者が地域で孤立せず安心して暮らして行けるようにすることがまちづくりの課題になっています。

このため、青葉地区福まちでは、一人暮らしの高齢者のための昼食交流会などを毎年開催しています。

一方、各町内会・自治会では、見守りの取組をさまざまな形で実施しており、福まちとしてもっと町内会の見守り活動の実態を知り、応援ができないかと考えてきました。

今年度、厚別区社会福祉協議会から福まちパワーアップ事業のモデル地区を打診され、青葉地区の見守り活動の充実に活かさないかという思いで受けました。

まず、パワーアップ事業の取組として、町内会・自治会で見守り活動の担い手になっている方々に集まっていただき、ワークショップ形式で、それぞれの取組の状況や課題などを話し合うことにしました。

ワークショップは、昨年12月と今年1月の2回開催。1回目は見守り活動の取組状況と課題や原因を考え、2回目は1回目の内容を振り返りながら各町内会・自治会ごとに「〇〇町内会では〇〇します」という宣言を出すこととしました。

2回のワークショップでわかったことは、各町内会・自治会の活動にはそれぞれ特色があり、それを活かした活動を行っていくことが全体のレベルアップにつながるのではないかと思います。足並みを揃えて一律に取り組むより、それぞれが蓄積してきたものを活かした方が効果的ではないで



青葉地区社会福祉協議会
青葉地区福祉のまち
推進センター

会計部長
やまもと ひろみ
山本 廣美さん

しょうか。

先進的に取り組む自治会の話聞いて、「うちでも試してみたい」という声上がり、自治会間の連携が図られるという成果もありました。そういう意味で、今後もこのような交流が必要だということを、みんな再認識する機会になったことは大きいです。

また、課題について話し合う中で、民生委員と町内会の連携がもっと必要であるとか、個人情報扱いが難しいことなどが挙げられていました。

担い手不足を課題とする町内会・自治会も多く、若い世代が参加しやすい地域づくりが大事だなと思います。さらに、こうした活動の要となる民生委員については、今後はすべての町内会・自治会から出ていただくことが必要ではないかと思っています。



青葉地区50周年となる今年は、記念誌の発行にも携わり、生涯ここに住み続けたいと話す山本さん。今回の情報交換をきっかけに、地域の見守り活動が一步步進んでいくことを期待しています。

今取り組んでいる活動が、5年、10年先、自分たちがもっと高齢になった時にも安心して暮らせるまちにつながっていく。「そのためにも、今私たちの世代がその土台を築いていかなければならない」と山本さんは力強く語ってくださいました。